

## 『看護学部紀要』発刊にあたって

山梨県立大学学長 鶴見尚弘

平成17（2005）年4月に開学した山梨県立大学では、創立期の繁忙のさ中に初年度より紀要が学部ごとに発刊の運びとなったが、それは本学教員の研究に対する熱意のあらわれであり、慶賀すべきことである。

本学は21世紀の新しい時代の潮流に対応し、山梨県立女子短期大学を改組した国際政策・人間福祉の2学部、山梨県立看護大学を看護学部とし、同大学院看護学研究科をも統合して発足したものである。

本学の目指す目標は、グローバルな知を創造・継承すると共に、その知にもとづき、地域からより広い社会で活躍できる実践的人材を養成することであり、加えて地域への貢献である。

大学の主たる存在の意義が研究と教育にあることは論を俟たないが、大学での教育は研究の成果に裏打ちされたものでなくてはならないし、大学が果たしうる社会貢献とは研究を通じて作り出した「学のシーズ」としての社会貢献であろう。時代が変化しても大学にとって研究の重要性は変わらないのである。

山梨県立看護大学では、平成10（1998）年の創立以来、7年間にわたって『山梨県立看護大学紀要』を発刊し、看護実践に還元され、とくに山梨県の看護・保健に関係した研究成果を数多く発表してきた。この度、統合を契機に第7巻をもって発行を停止し、『山梨県立大学看護学部紀要』として新たに発足することとなった。従来の成果を引き継ぎながら、総合大学としての多様性を加味し、国際化・地域貢献等を併せ持ったグローバルな視点からの創造的な優れた論稿が積極的に投稿され、巻を追うごとに、斯界に重きをなすに至ることを念願して止まない。

2006年3月